

令和 5 年 6 月 13 日現在

機関番号：33919

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2022

課題番号：18K00762

研究課題名(和文)1960年代までの制度的韓国語教育の内容変遷とその影響要因に関する史的考察

研究課題名(英文)A Historical Study on the Transition of Institutional Korean Language Education and its Influential Factors until the 1960s

研究代表者

呉 大煥 (Oh, Daewhan)

名城大学・外国語学部・教授

研究者番号：20340218

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究を通じて、最初の宣教師であるAllenの「A Language Book of Korean」を発掘し、論文発表をした。また、初期宣教師の主な韓国語学習書だった「Fifty Helps for the Beginner in the Use of the Korean Language」の特徴を明らかにし、論文発表をした。さらに、前述の2冊の学習書の電子化をし、コーパス化したものを元にして、1冊の著書を発表した。そして、アメリカの宣教師の組織が韓国語学堂の緊密な関係を維持した記録をもとに、その関係性を明らかにした論文を発表した。したがって、韓国語学堂の発展過程を説明することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近代的韓国語教育の歴史の重要な機関である延世大学の韓国語学堂の発展過程を説明することができ、また、初期基督教宣教師の韓国語学習書の特徴を言語学的、教育学的アプローチにより説明することによって、韓国開放前の韓国語教育特徴を完璧ではないが、明らかにすることができた。現代の韓国語教育の出発点は韓国語学堂の設立にあるが、その前史としてアメリカを中心とした基督教宣教師の韓国語教育・学習が存在したこととその前史が現代の韓国語教育に何らかの形で継続性を持っていることがわかった。

研究成果の概要(英文)：Through this study, I discovered and presented a paper on "A Language Book of Korean" by Allen, the first missionary. I also presented a paper on "Fifty Helps for the Beginner in the Use of the Korean Language," which was the primary Korean language study book of the early missionaries. In addition, I digitized the two aforementioned study books and published a book based on the corpus. And I published a paper that clarified the relationship between the Korean Language Institute at Yonsei University based on the records that the American missionary organization maintained with the Korean Language Institute. Thus, I was able to explain the development process of the Korean Language Institute.

研究分野：韓国語学、韓国語教育、社会言語学

キーワード：開放前の基督教宣教師の韓国語教育 延世大学韓国語学堂の設立 韓国語学堂の発展過程 初期韓国語学堂と宣教師との関係 初期宣教師の韓国語学習書

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

世界的に学習者が増えて、益々発展している韓国語教育の歴史に関する関心が高まっている中、韓国語教育の嚆矢とも言える延世大学の韓国語学堂の発展過程に関する空白が存在し、その歴史的な空白を埋める必要があった。

研究開始当初まで、基督教宣教師による韓国語教育機関が存在し、その機関が「延世大学韓国語学堂」の設立まで繋がっているとする論考を発表するなどした。

しかし、韓国語教育の史的展開は追跡出来たが、教育内容の史的变化や連続性の探究まで到らなかった。韓国社会の変化、言語的变化、また言語学理論の発展などが韓国語教育の教育内容にどのように反映したか、または影響したのかについて議論されることがなかった。

2. 研究の目的

本研究と関連した研究分野は「韓国語教育史」と「教材分析」の2つである。まず、朝鮮半島における「韓国語教育史」は、戦後の韓国語教育が形成されるまでの史的展開などは注目しないまま、主に知られている残存教材を中心とした記述に過ぎない研究であり、「教材分析研究」は、主に韓国語学史の側面からの研究であったため、韓国語教育が行われた史的脈絡を省いて文献のみを対象にする研究であった。

本研究は、こういう問題点を克服することと韓国語教育の歴史の空白を埋めるため、以前の科研費（基盤 C：23520688）の交付を受けた研究では、出来なかった教育内容の史的变化及び連続性の探究や宣教師の韓国語教育からの延世大学の韓国語学堂への影響を明確にすることを目的とした。

教育機関の設立まで、韓国語教育の経験が全くなかった延世大学が1959年4月から始めた韓国語教育が教育的成果を上げるためには、基督教宣教師からの影響が存在するのではないかという仮説から、この仮説を立証することが目的でもあった。

3. 研究の方法

大きく分けて以下の2つの研究作業を行った。コロナや家庭内の不幸事などがあって計画通りはできなくなったため、宣教師の教材のコーパス化と延世韓国語学堂と基督教宣教師との関係性を立証することに絞って研究を行うことに計画を修正した。

教育内容の変化や連続性を把握するため、宣教師の韓国語教育関連著作物をコーパス化して、教育内容の言語学的、言語教育学的な接近ができるようにした。まず、延世大学の言語情報研究院の協力を得て、入力作業をして電子化をした。その後、韓国のコーパス言語学の専門家である崔ジョンド先生（当初は韓国の国立国語院所属、現啓明大学所属）の協力を得て、コーパス化することが出来た。当初は全ての韓国語教育関連テキストをコーパス化する予定だったが、コロナ禍になって2020年以降はこの作業をすることが出来なかった。

また、宣教師からの影響を明確にするため、アメリカのPresbyterian Historic Societyを訪問して関連資料を収集し、分析した。さらに延世大学の記録を照らし合う作業をしようとしたが、延世大学から関連史料(理事会の議事録)の閲覧許可を得ることが出来ず、また申請している。

4. 研究成果

2018年度

- 学会発表:「朝鮮半島における1959年以前の基督教宣教師による韓国語教育の歴史的意味」、第69回朝鮮学会全国大会
- 論文発表:「宣教師の朝鮮語学習書『Fifty Helps for the Beginner in the Use of the Korean Language』に関する研究」、『言語と文化』第15巻1号、韓国言語文化教育学会

2019年度

- 学会発表:「初期の延世大学と基督教宣教師」、韓国語学堂の60周年記念国際学術大会

2020年度

- 著書:『開放前の宣教師の韓国語教育テキスト研究-初期学習書 *Fifty Helps for the Beginner in the Use of Korean Language*(1922)の分析-』(共著)
- 論文発表:「最初の宣教師Allenの*A Language Book of Korean*に関する研究」、『言語と情報社会』第42号、西江大学校言語情報研究所

2022 年度

- 論文発表：「初期の延世大学韓国語学堂と基督教宣教部との関係」、『社会言語学』第 31 巻 1 号、韓国社会言語学会

以上のような研究成果を通じて、修正した計画通り成果を上げることが出来た。

教育内容の史的変化や連続性を確認するための初期宣教師の著作を新しく発掘して、その内容を探究することができた。コーパス言語学の専門家の崔先生などの協力を得て、韓国語教育史や教材分析研究では初めて、コーパスを利用した教材分析作業を行い、1 冊目の著作を出版することができた（2 冊目も企画したが、出版補助をする予定だった延世言語情報研究院の内部問題で出来なくなった）。1920 年代まで最もポピュラーだった『Fifty Helps for the Beginner in the Use of Korean Language』を、コーパス言語学を用いて言語学的、教育学的分析の成果をまとめて出版することが出来たのである。しかし、1920 年代～1950 年代までの教材のコーパス化は、コロナ禍で延世大学言語情報研究院の協力を得ることが出来ず、また同機関の内部問題や入力作業協力者の問題が原因で実現することが出来なかったため、今後の課題にしたい。

また、基督教宣教部と初期の韓国語学堂の関係性も確認することができた。しかし、アメリカで収集した記録は宣教部が生産した記録なので、初期韓国語学堂の記録を確認する必要があるため、現在も延世大学法人へ記録閲覧を要求している。韓国を訪れることが可能となった 2022 年 8 月に延世大学の法人本部を訪問し、要請をしたが断れたことがある。この記録を閲覧することが出来ればより鮮明に関係性を明らかにすることができると予想されるので、引き続き尽力を尽くしたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 呉大煥、チェジョンド	4. 巻 42
2. 論文標題 最初の宣教師Allenの A Language Book of Koreanに関する研究	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 言語と情報社会	6. 最初と最後の頁 142、178
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 呉大煥	4. 巻 15.1
2. 論文標題 宣教師の朝鮮語学習書 『Fifty Helps for the beginner in the Use of the Korean Language』に関する研究	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 言語と文化	6. 最初と最後の頁 203-222
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 呉大煥	4. 巻 38-1
2. 論文標題 初期の延世韓国語学堂と基督教宣教師との関係	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 社会言語学	6. 最初と最後の頁 67-86
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 1件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 呉大煥
2. 発表標題 初期の延世韓国語学堂と基督教宣教師
3. 学会等名 韓国語学堂創立60周年記念館国語教育国際学術大会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 呉大煥
2. 発表標題 朝鮮半島における1959年以前の基督教宣教師による韓国語教育の歴史的意味
3. 学会等名 朝鮮学会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 呉大煥、金ハンセム、チェジヨンド、パクジョンフ	4. 発行年 2020年
2. 出版社 韓国文化社	5. 総ページ数 283
3. 書名 解放前の宣教師の韓国語教育テキスト研究-初期学習書'FIFTY HELPS FOR THE BEGINNER IN THE USE OF THE KOREAN LANGUAGE(1911)'の分析-	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------